

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		事業開始年度		平成19年度～		根拠法令・規程等	担当課(室)	農林水産課
総合計画	大項目	基本目標	04	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり				
	中項目	基本施策	01	豊かな食を支えるまちづくり				
小項目	施策	01	農業					
事務事業名		14	農地・水・環境保全向上対策事業		問	職・氏名	管理係長 大道健一	
					先	電話	0869-64-1831	

事業の実施		対象(誰・何に対して)		農振農用地域内で、事業の目的を理解し、共同活動に取り組む。	
目的(何のために)		構成員による共同活動を通じ、取組地域に存在する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図る。			
行政活動(どのような方法で)		農地・水・環境の良好な保全と質的向上を図るため、農業者だけでなく、地域住民、自治会、関係団体などが幅広く参加し、施設の管理、農村の自然や景観など共同活動を行う。			
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)		できるだけ多くの地域に参加してもらって、住民独自で地域に存在する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図る。			

事業の実績						
活動	実施項目		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	取組地区数	地区		—	1地区	1地区
実績	対象農用地面積	a		—	5,617	5,617
	事業費	千円		0	1,448	1,267
業績	必要人員	人		0.18人	1,084	630
	事業費計	千円		0	2,532	1,897
財源	国・県支出金	千円		—	723	635
	受益者負担金	千円		—	0	0
その他	繰入金	千円		—	0	0
	市債	千円		—	0	0
一	その他()			—	0	0
	一般財源			0	1,809	1,262
受益者負担比率		%		—	—	—

結果指標名		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	結果指標量	地区	—	1	1
	対前年対比	%	—	—	100.0%
	活動コスト	円	—	2,532,000	1,897,000
	単位当たりコスト	円	#DIV/0!	2,532,000	1,897,000
結果指標②	結果指標量	a	—	5,617	5,617
	対前年対比	%	—	—	100.0%
	活動コスト	円	—	2,532,000	1,897,000
	単位当たりコスト	円	#DIV/0!	451	338

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
農地・水・環境保全向上対策事業への参加数	目標値(A)				
	実績値(B)				到達目標年度
	達成率(B/A)				
成果指標設定の考え方・式や説明					
この事業は、農振農用地に限られ、地区からの要望により取り組まれるため、目標値の設定はできない。					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>		B
妥当性の評価	市の関与の妥当性	判定理由・課題認識		
		現在取り組んでいる地区については、順調に活動が行われている。また、19年度から5年間の事業であるが、中途参加も可能であるため、他の地域からの要望があれば積極的に勧める。		
市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	説明		
		市民・団体等から要望・要請が強い		
効率性の評価	コスト	効率性評価<A~E>		B
		判定理由・課題認識		地域主体の事業であるため、地域で十分検討して、事業の趣旨にそって取り組んでいる。
有効性の評価	目的達成度	有効性評価<A~E>		B
		判定理由・課題認識		この事業は、農振農用地に限られ、地区からの要望により取り組まれるため、目標値の設定はできないが、活動については情報提供を行っている。

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	結果指標量②			成果指標量	
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	現在参加している組織に対して、引き続き活動の指導・支援をおこなっていく。また、他の地区で参加要望があれば取組を勧める。					

総合評価		評価区分<A~E>	B
現在取り組んでいる地区については、積極的に活動に取り組まれ、順調に活動が行われている。また、19年度から5年間の事業であるが、中途参加も可能であるため、他の地域からの要望があれば積極的に勧める。			

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	現在参加している組織に対して、引き続き活動の指導・支援をおこなっていく。また、他の地区で参加要望があれば取組を勧める。					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		